

地域自然情報ネットワーク

「生態系レッドデータブックを考える」

ー公開ワークショップー

2009年1月25日
エコギャラリー新宿

プログラム：

- 14:00－14:30 「生態系レッドデータブック」の考え方とその意義について
(亀山 章 東京農工大学教授／NPO 地域自然情報ネットワーク理事長)
- 14:30－15:00 事例に見る「場」を評価し保全することの重要性について
(小泉 武栄 東京学芸大学教授／NPO 地域自然情報ネットワーク理事)
- 15:00－15:20 東京都レッドデータブックの課題と展望についてー特に昆虫相について
(松原 豊 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト (TKM) 事務局)
- 15:20－15:40 東京都生態系レッドデータブック業務進捗状況の報告
(増澤 直 (株) 地域環境計画／地域自然情報ネットワーク 副理事長)
- 15:40－16:00 質疑応答

要旨

動植物のレッドデータブックは自然環境保全意識の啓発と保全の実践という側面とは別に、主に環境アセスメントの現場で重用され、猛禽類などの「絶滅危惧種」などについては詳細な調査（予測評価）がされるようになりました。このことは、一部では貴重種偏重と揶揄されるほどですが、多くの人々に着目されて、保全に繋がるという意味では大きな効果を上げています。一方、アセスでは「生態系」の考え方が導入されて、生き物の生育生息する「場」を総体としてとらえて予測評価や保全代償等を行うことが求められるようになりました。しかし、実際には、どのような評価を行うべきか判断が難しいという声が、多くの調査の現場から聞こえてきます。その理由のひとつには保全すべき生態系を示した地図がないことがあげられるでしょう。そこで、動植物のRDBと同様に生態系を支える「場」の評価のために重要な生態系や景観をリストアップし、生態系レッドデータブックとして提示することを目標とします。開発の進んだ東京都のような地域ではその活用の意義が高いと考えられます。折しも、今年度は東京都の動植物レッドデータブックを更新していますので、この生態系レッドデータブックが完成した暁には、東京都においては、これまで以上に客観的かつ総合的な評価が可能となるのではないかと考えます。

今回の公開ワークショップでは、このような「場」を評価する生態系レッドデータの考え方や重要性について話題提供を行うとともに、ともに事業に参加してくださる方々と今後の作業や最終成果のとりまとめについて議論を行いたいと考えています。

東京都生態系RDB 作成進捗報告

—「場」を評価し保全できるように—

NPO法人 地域自然情報ネットワーク
増澤 直
acmasu@green.ocn.ne.jp

報告する内容

- 作業に至る経緯
- 地形RDBの(意外な?)使われ方
- 「場」の成り立ちや構造に注目すること
- 東京都RDBの改訂を機に
- 東京都生態系RDB作成状況
- これからの生態系アセスにむけて

アセスでの自然環境の扱われ方の問題

- 要素の個別把握が中心
- 生態系の把握が食物連鎖に偏重している
- なぜそこに分布するか説明がない
- 地域の特徴が充分把握できていない



生物の生息、生息する「場」
を大切にすることが重要

地形RDBの(意外な?)使われ方

- 環境省や地方版のRDBは自然環境保全意識の啓発と保全の実践という側面とは別に、主にアセスの現場で重用され、いわばRDBがパイプルのようになっている?
→貴重種偏重アセス
- アセスに「生態系」の概念が導入されたものの、動植物とそれらの生活を支える基盤環境や環境類型についての議論や評価はほとんどなされていない。



- しかし「地形RDB」の刊行により、これまでほとんどアセスで見向きもされなかった基盤環境にスポットが当たり、少なからず効果を上げている。
- もし、重要な「生態系」のリストアップがなされれば、今よりももっと「場」に着目したアセスが実施されるようになるのでは。「生態系レッドデータブック」を作ろう!

地形レッドデータブックとは

- 動植物RDBにならい、護岸工事やダムなどで失われつつある我が国を代表する地形や学術上貴重な地形をリストアップしたもの
- アセス法で地形・地質は生物の生息基盤として評価対象となる。
- 自然(景観)観察のガイドブックとしても活用



➡「場」を保全することが重要

その場所の成り立ちや構造に着目すること

生態系の把握には植物や動物の分布を地質・地形や自然史などの面から考察することがたいせつ。



- ・環境類型区分図をもっと有効に使おう
- ・生態系のRDBを作ってしまうというのは?

東京都RDBの改訂を機に

- 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年): 地方自治体としてはきわめて早い制定だが、10年を経過し現状にそぐわない
- 2008年度本リストの改訂作業発注(NPO地域自然ネットは仕様案づくりを行う)
- 生物種リストの見直しにあわせて、重要な生態系や景観のリストアップを提案
- 2008年度NPOの独自事業として作業開始(セブンイレブン緑の基金助成をうける)

東京都の生態系RDB作成のメリット

- 東京都では、平成19年度に約20年ぶりに本土部の植生図が作成更新され、その利活用が可能なこと。
- 事業者や行政に対して脆弱な生態系や景観についての認知度を高め、アセスにおける「場」の評価のさらなる啓発 → ミティゲーションバンク制度などの効果や定着が促進される
- GISを活用した環境類型区分図や動植物の生育生息ポテンシャルマップの普及啓発に役立つ
- NPOの技術者、研究者のアセス実績や知見等から、保全すべき危機的な生態系や景観を抽出し、オーソライズが可能
- GISの精度管理が可能

東京都生態系RDB作成状況

■ 対象地域の区分

- ① 都心部
(主に23区及びその外縁部のすでに市街地化されている地域)
- ② 近郊住宅地および里山地域
(雑木林や田園景観が残る地域のほか、ニュータウンや宅地化、道路建設など、現在東京で開発が一番進行している地域)
- ③ 山地(奥山)地域
(面積の大部分が森林からなる奥多摩の山地地域、渓谷や山村集落)
- ※④ 大規模な面積、規模の生態系(保留)
(多摩川の河川敷や段丘崖のグリーンベルト等、大規模なスケールで考えるべき重要な生態系)
- ※ 島嶼部は対象外とする

東京都生態系RDB作成状況

■ リストアップ対象となる生態系(景観)の選定基準(案)

- ・生態系の成因による区分カテゴリー
 - I 気候帯を代表する成帯的生態系
 - II 地形、地質によって規定される生態系
 - III 氷期の遺存的な生態系
 - IV 河川や湖などの陸水や海による影響を強く受けた生態系
 - V 生物の相互作用(食物連鎖やすみ分けなど)が明確、または重層的な生態系
 - VI 人間活動や地域の伝統文化によって維持継続されている生態系(里山等)
- ・生態系の構造による区分カテゴリー
 - VII 異なる生態系の周縁部で一体の連続性の確保が望ましい生態系(エコトーン)
 - VIII 上記生態系を維持する上で重要かつ象徴的な景観
 - IX 脆弱かつ一度破壊されると復元のきわめて難しい生態系
 - X その他の重要な生態系、景観

東京都生態系RDB作成状況

■ 東京の自然を代表する生態系の選定基準

- ① 東京の自然を代表する典型的かつ希少、貴重な生態系、景観
- ② ①に順じ、東京の自然史や生態学の教育上重要な生態系、あるいは広域的な視点から東京都やその隣接地域において注目したほうがよいと考えられる生態系、景観
- ③ 多数存在するが、なかでも典型的な構造を示し、保存すべき生態系
- ④ 動植物の生育生息の場として価値が高い重要な生態系

東京都生態系RDB作成状況

■ 保全ランク選定基準

- A 現在の保全状況がよく、今後もその継続が求められる生態系、景観
- B 現時点で低強度の破壊を受けている生態系、景観。今後破壊が継続されれば消滅、変容が危惧される。
- C 現在、著しく破壊されつつある生態系、景観。また大規模開発等で破壊が危惧される生態系、景観。このランクに属する生態系、景観は現状のままでは消滅、変容すると考えられるのもっとも緊急な保全が必要。
- D 重要な生態系、景観でありながらすでに破壊され、現存しない生態系

